

# 千秀だより

横浜市立千秀小学校

1月号

平成28年(2016)1月7日



新年あけましておめでとうございます。

校長 市川 幸男

新年あけまして おめでとうございます。保護者の皆様・地域の皆様には昨年中、多方面にわたりご支援、ご協力をいただき、ありがとうございました。本年もよろしくお願ひいたします。

冬休み中の子ども達の様子や「親子の時間」はいかがでしたでしょうか。家族や周囲の大人達から温かく包み込まれた時間が、今後の子ども達の「がんばり」の力につながっていくと思っております。子ども達の成長や変容に気づきなどあれば、ぜひお話を聞かせていただければと思います。

後期の後半が始まりました。50日あまりの短い期間ですが、6年生は中学校へ、在校生は学年進級と、一つステップを上げるための準備とも言うべき、大切な期間です。それぞれの学年で、身に付けておくべきことができているかどうか確認しながら進めて参りたいと考えています。一番強いのは”続ける才能”。結果も大切ですが、それ以上に重要なのは、子ども達一人ひとりの学習に臨む気持ちです。話を耳と目と心で聴き、自分で考え、しっかりと説明や発表しようとする姿勢です。学校の学習はもちろんのこと、家庭においても、机に向かう習慣から、宿題の他に自分で課題を見つけて行う自主学習の姿勢まで、日々の積み重ねで大きな力としていきたいと考えています。

さて今年申年。先日、お正月番組で日光東照宮の「見ざる・聞かざる・言わざる」で有名な三猿(申)についてのお話を見ました。今年の干支でもあり、興味深く見ていただいたのですが、この三猿の彫り物は、東照宮の神厩舎にはめ込まれた八面の彫り物の一つであり、猿を使って人生訓を伝えていると言われて



います。その中で、この三猿の面では幼き頃は「悪いことを見ない・聞かない・言わせない」が大切であるということをやっています。もとは論語の「不見・不問・不言」の教えが、8世紀頃に天台宗の留学僧を經由して日本に伝わり、これに、語呂合わせの「猿」がくっつき、見ざる→見猿となったといわれています。では、今の教育で求められていることはどうでしょうか。「変化していく社会の中、身のまわりに起きる状況を、しっかりと見つめ、多方面に情報を聞き、自ら分析・判断し、自分の考えを積極的に発信していく。」とされています。一読すると矛盾しているかに感じるころもありますが、今の社会の中では、悪いことを見せないこと、耳に入れないことは無理なところですが、ならば清濁合わせて受け止め、そのうえで、子ども達自らが、「悪いことは悪い、良いことは良い」と判断し、悪いことを排除し、良いことを学んでいくという、より深い考える力が求められているのではないかと私は受け止めました。日光東照宮は1617に創建されました。400年後の今を生きる子ども達にとってみれば、江戸時代以上に高い力を求められ、大変かもしれませんが、子ども達を愛し慈しんでいただける千秀小学校の保護者の皆様や地域に包まれている子ども達なら必ずできると、私は信じています。重ねてではございますが、本年もどうぞよろしくお願い致します。